

松江の外の松江—同郷会と同郷人雑誌

2012年6月16日 竹永三男(島根大学法文学部)

はじめに

(1) 同郷会・同郷人雑誌とは何か

1. 同郷会

……出生地(故郷)を離れて他地域(とくに東京・大阪などの大都市)に移住した人々が、その移住地で、出身地を同じくする人(同郷人)同士の親睦を深めるために結成する団体。

2. 同郷人雑誌

……同郷会に集う人々や移住した人々を読者対象として、東京などで発行される雑誌で、多くは会員制をとり、郷里にも読者をもつ。

(2) 同郷会・同郷人雑誌の盛行とその要因

1. 1892年(明治25)の状況

「如今(現今)全国の人士、各其郷土の一団を以て郷党会(同郷会)を有せざるなく、一県は一県を以て相集まり、一国は一国によりて相親しみ、大小異なるありと雖とも、団結の方法無きはあらざるなり」(「発刊の辞」『浜田会誌』第1号、1892年3月)

2. 同郷会結成の前提としての人の移動

<1>1871年(明治4)の廃藩置県……旧藩主(華族)の東京集住命令→一部の旧家臣の移住

<2>高等教育機関の東京集中……勉学のための上京

<3>人口増減にみる地域格差→【図1】(古厩忠夫『裏日本』岩波書店、1997年)

<4>日本人の海外移住の増加……南北アメリカ移民／日本の植民地領有・帝国主義化→【表1】

【図1】府県別人口の推移<省略>

【表1】海外在住の日本人数（単位・千人）

	朝鮮	「満州」	北米	南米	ヨーロッパ <sup>o</sup>
1926(大正 15)	442		158.4	71.3	3.4
1936(昭和 11)	609	376	137.6	223.7	2.6
	韓国	中国	北米	南米	ヨーロッパ <sup>o</sup>
1955(昭和 30)			37.5	160.2	1.1
1966(昭和 41)	0.9		68.6	207.3	0.8
1976(昭和 51)	2.7	4.5	144.3	184.7	3.7

	1986(昭和 61)	3.3	8.2	184.9	151.1	75.6
--	----------------	-----	-----	-------	-------	------

## 【I】戦前の主な同郷会と同郷人雑誌

(1) 戦前の道府県単位で発行された同郷人雑誌 →【表2】 (クリックすると PDF ファイル約 48KB が開きます)

<1>発行地 ……東京、一部に大阪

<2>雑誌の性格……同郷会(県人会)機関誌／同郷会一般を対象とする雑誌

<3>誌名の特徴……道府県名／旧国名→1県=1国の場合、1県=複数の国の場合

<4>雑誌の浮沈、交代

<5>全国的組織化……1926年(大正15) 日本郷土雑誌協会(『島根評論』『二豊及二豊人』

のよびかけ。事務所は島根評論社内)

1935年(昭和10) 関西郷土雑誌联合会と合併

(2) 小単位の同郷会と同郷人雑誌

<1>島根県の例

1) 浜田会の沿革 1880年(明治13) 在京旧浜田藩親睦会

1885年(明治18) 旧鶴田藩青年会→1889年 在京旧浜田藩親睦会と合同

1890年(明治23) 浜田会結成、機関誌『浜田会誌』

a. 会の組織原則＝会員資格の変化……「旧藩士族」→「旧浜田藩士及之二縁故アル者」

b. 会員の分布 設立当初 187人 東京府94人、岡山県55人、北海道7人(琴似)

c. 会員の職業 官公吏26人、商業13人、教師12人、警察官10人

#### d.浜田支団、津山支団の設置

2)東京出雲学生会 →「[市史編纂コラム](#)」参照 (クリックすると市史のページヘジャンプします)

### <2>旧藩単位と同郷会と同郷人雑誌

#### 1)津山青年協和会(岡山県-東京)

1890年創立、旧津山藩管内出身者、「学業ノ切磋、徳性ノ涵養助長」を目的  
学生寄宿舍「鶴山館」開設(本郷区森山町)

#### 2)武生郷友会(福井県-東京)

旧領主本田氏=越前藩の附家老との結びつき

1882年 武生親睦会 1887年 武生郷友会 1890年『武生郷友会誌』創刊

1888年 武生郷友会所開設(クラブ機能)

#### 3)犬山壮年会(愛知県-東京)

旧領主成瀬氏=尾張藩附家老

1888年『犬山壮年会』創刊……学術・教育に重点 数学・英語の講義、入試問題

会員構成 東京本部 29人(14人が学生・生徒) 名古屋支部 14人(12人が生徒)

稲置支部 38人(19人が小学校教員)

#### 4)茨城県の諸会

笠間郷友会 旧笠間藩(牧野氏) 機関誌『笠間郷友会々報』 1919年～1943年

亀城会 旧土浦藩(土屋氏) 機関誌『亀城会会報』 1930年～1944年

### <3>同郷会の設立目的の特徴

同郷人の親睦、上京学生の指導誘掖(奨学金・寄宿舍)、東京と郷里の連絡

郷里の振興「石見一州ノ利益ヲ図」る(石見郷友会)

「郷閭(郷里)ノ福祉ヲ増進セント欲」す(江州郷友会)

←明治維新後の中央集権化・資本主義経済の発展の中での地域格差の拡大を反映

### 【Ⅲ】島根県・松江市関係の同郷会とその特徴

#### (1) 島根県関係の同郷会の特徴 →【表3】

<1> 会員資格 同郷(出身地が同じ)／同窓(出身学校が同じ)／同職(職業が同じ)

<2> 設置単位 居住地・移住地で設置(海外・国内・県内)／非居住地(学校・職場)

#### (2) 東京と大阪に設置された同郷会

##### <1> 東京-島根県協会

1) 沿革 1901年(明治34)1月 島根県法政会設立 法律・政治・経済専攻学生

11月 改組 会長・梅謙次郎、副会長・岸清一

客員・松平直平、千家尊福ら

1902年(明治35)10月 「山陰鉄道論」発表→調査報告を新聞各紙に掲載

1907年(明治40)11月 島根県協会と改称。会頭・梅謙次郎、副会頭・岸清一ら

##### 2) 「島根県協会規則」

第一条 本会は島根県人及び特に島根県に縁故あるものを以て之を組織す

第二条 本会は島根県の産業、教育、其他諸般の事項を調査研究し其の利益を増進し

其発展を助成し併せて会員相互の智識を交換し親睦を厚うするを以て目的と

す

(以下省略)

### 3) 島根県協会の会員構成とその特徴 1909年(明治42)頃

a. 役員と名誉会員 →【表4-2】【表4-3】 (クリックするとPDFファイル約32KBが開きます)

b. 正会員中の松江市域出身者の出身地・居住地・職業 →【表4-1】 (クリックするとPDFファイル約197KBが開きます)

- ・市域全体から東京および全国・海外に展開
  - ・学生の多さ
  - ・官界、実業界・銀行、法曹、教育界など広範囲の活動
  - ・会員の集中する町の存在……雑賀町、内中原町、殿町など
- 近代の都市松江の特徴を反映

## 〈2〉大阪—社団法人島根県友会

1) 沿革 — 大阪近辺在住の出雲・石見出身者による国別同郷会結成

1903年(明治36) 大阪島根県友会結成

1912年(明治45) 第12回大会 衰退する会運挽回のため、活動改善

「県下の重大なる災害に対する慰問救護、近畿地方に於ける県人の急疾災厄に対する慰問救済、無縁墳墓の建設と展掃、会員及び同居親族の不幸に対する弔問、会員相互の連絡を緊密にするための機関誌発行、会員親睦のため定期集会の開催」

1922年(大正11) 会則改正 会館建設(県下物産の陳列・紹介による販路拡張)

県人・県出身学生のための無料宿泊所開設、無料職業紹介所開設など

1926年(大正15) 社団法人設立認可

## 2) 社団法人島根県友会の会員構成とその特徴

a. 特別会員・役員と名誉会員の構成 →【表5-2】～【表5-4】（クリックするとPDFファイル約145KBが開きます）

b. 正会員中の松江市出身者の出身地・居住地・職業 →【表5-1】

島根県協会(東京)と同様の特徴あるも、実業界での活動が顕著

大阪瓦斯など特定の会社に複数の松江市出身者

→現在に続く伝統

(3) 石倉俊寛松江市長の「大松江市建設」論 →【史料】

## おわりに

(1) 同郷会・同郷人雑誌の検討から見えてくるもの

<1> 同郷会・同郷人雑誌一般の特徴—親睦に加えての郷里を出た者の郷里振興願望

<2> 松江市から転出した人々の郷土論・松江論—「肖像画」と「自画像」の間

<3> 会員構成から想定できる市域内各町・地域の特徴

(2) 同郷会、同郷人結合の役割

福岡世徳松江市長の情報収集・陳情活動に果たした同郷人のネットワークの意義

(3)『松江市史』近現代編の編纂と同郷会・同郷人雑誌の利用

〔参考文献〕

竹永三男「県人会・郷土雑誌考—近代地域史研究の課題に寄せて—」『山陰地域研究(伝統文化)』第1号、1985年

竹永三男「同郷会の成立—1880～1890年代における同郷人結合の結成」『高井悌三郎先生喜寿記念論集 歴史学と考古学』真陽社、1988年